

東アジア地域像の新構成

研究代表者 芳 井 研 一

1. 分担者

井 村 哲 郎
関 尾 史 郎
児 玉 憲 明
山 内 民 博
永 木 敦 子
錦 仁
橋 本 博 文
中 西 啓 子
佐 藤 康 行
中 村 潔

2. 協力者・所属

柴 田 幹 夫・国際センター

3. 2008年度の研究活動の概要

本プロジェクトの目的のうちの一つの柱である東アジア地域研究に関する国際的学術ネットワークづくりの面を中心に、本年度もいくつかの取り組みを進めた。

(1) プロジェクトに関連する以下のシンポジウム等を共催した。

- ① 漢陽大学－新潟大学国際学術セミナー Hanyang-Niigata Conference
境界をめぐる諸側面 Various sides surrounding a Boundary
日時：2008年10月18日(土)・19日(日)

会場：新潟大学総合教育研究棟一階大会議室

主催：新潟大学コアステーション環東アジア研究センター

漢陽大学Japanese Culture Studies BK21 Team, Hanyang University

10月18日

Opening Remarks 10:00～10:30

Ha-mie Chung (Hanyang University)

芳井研一 (Niigata University)

Session 1 10:30～11:30

(1) 鈴木孝庸 (Niigata Univ.): 琵琶法師と旅

(2) Ha-mie Chung (Hanyang Univ.): 漂流する境界

Session 2 13:00～17:00

(3) Philip C. Brown (Ohio State Univ.):

20世紀前半の東アジアにおける技術移動

－比較研究プロジェクトへの考察－

(4) 田永秀 (西南交通大学):

日中条約改正の比較研究

－寺島・井上と北洋政府の条約改正を中心に－

(5) 太田肇 (Niigata Univ.):

東北アジアにおける EANET 設立以前の酸性雨研究

(6) 小森暁生 (Niigata Univ.):

中華民国期の農村調査－『民国時期社会調査叢編』について－

(7) Ae-kyoung Kim (Hanyang Univ.):

家族関係網が若者の社会的排除に及ぼす影響

(8) Sung-hee Kim (Hanyang Univ.) 昭和前期 (1926－1945) に

おける食文化

10月19日

Session 3 10:00～15:00

(9) Joo-youn Kim (Hanyang Univ.): 判断認識を表す副詞についての

一考察

- (10) Hye-kyong Jeon (Hanyang Univ.) :
現代日本語における時間を表す従属節の意味・用法
- (11) Su-jin Oh (Hanyang Univ.) : 真偽判断モダリティの研究
- (12) Sang-ok Lee (Hanyang Univ.) :
対人関係においての甘えの談話分析
- (13) Young-cheol Kim (Hanyang Univ.) : 『螢川』の雪と家族
- (14) 渋谷裕紀 (Niigata Univ.) :
近代日本の象徴詩－薄田泣堇と蒲原有明－

② 国際ワークショップ「近代中国と満鉄－満鉄史研究の現状と展望」

日時：2009年2月8日・9日

場所：新潟大学総合教育研究棟3階 D301

2月8日

開会の挨拶 井村哲郎

満鉄史研究の課題 岡部牧夫（著述業）

満鉄研究の歩みと課題－岡部牧夫氏「補章」によせて

伊藤一彦（宇都宮大学教授）

満鉄傘下企業について－柳沢論文をめぐって

江田憲治（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

中国における満鉄研究の現状

武向平（中国・吉林省社会科学院満鉄資料館）

満鉄の自然科学系調査研究機関研究の現状と課題

飯塚靖（下関市立大学経済学部教授）

満鉄と化学技術開発山本裕（九州国際大学社会文化研究所客員研究員）

満鉄と大豆市場 柳沢遊（慶応大学経済学部教授）

満鉄と情報活動 井村哲郎（新潟大学大学院現代社会文化研究科教授）

満鉄経営と港湾－風間秀人「満州国期における港湾」によせて

兒嶋俊郎（長岡大学経済経営学部教授）

2月9日

満鉄調査部史再考－井村論稿によせて

松村高夫（慶應義塾大学名誉教授）

満鉄調査における志向と制約－株式会社制度の観点から

平山勉（映画専門大学院大学映画プロデュース研究科専任講師）

満鉄と殖民地医学 江田いづみ（慶應義塾大学経済学部非常勤講師）

総括討論

閉会の辞 關尾史郎（新潟大学人文学部長）

4. 2008年度の研究成果の一覧

[論文等]

1. 中西啓子「契嵩の護法思想」『日本中國學會報』第60集, 2008年10月。
2. Yasuyuki Sato, "Thai Villager's Organizations from the Perspective of Social Capital, Suzuki Noriyuki and Somsak S. eds, Civil Society Movement and Development in Northeast Thailand", Khon Kaen University, Book Center, pp.93-112. 2008.
3. 佐藤康行「村の暮らし」, 『佐渡島環境大全』, 新潟県佐渡市, 124, 128頁, 2008年。
4. Yasuyuki Sato, "Ethnicities in Transnationalized Thailand: Characteristics of the Thai-Khmer and the Thai- Kui," Surindra Journal of People and Society in Local Culture, Vol.1. No.1, 1, pp.1-13. 2009年。
5. 佐藤康行『タイ農村の村落形成と生活協同』, 査読有, めこん, 全288頁, 2009年。
6. 井村哲郎『満鉄調査部と中国農村調査－天野元之助中国研究回顧』, 天野弘之・井村哲郎共編), 不二出版, 全404頁, 2008年。
7. 井村哲郎「アジア太平洋戦争下の満鉄調査組織」, 岡部牧夫編『南満洲鉄道会社の研究』, 日本経済評論社, 269－352頁, 2008年。
8. 井村哲郎「日本の中国東北における情報ネットワーク－満鉄の情報活動－」, 『環東アジア研究センター年報』4号, 44－50頁, 2008年。
9. 井村哲郎「『満洲国』歴史研究の現状 1 日本での場合」, 植民地文化学会・東北淪陷十四年史総編室共編『「満洲国」とは何だったのか 日中共

- 同研究』，査読無，小学館，308－316頁，2008年。
10. 井村哲郎「知られざる満鉄の雑誌－『満鉄資料彙報』」，『叢書月刊』通巻274号，6－9頁，2008年。
 11. 井村哲郎「日中戦争下の文献文書，そして現状」，『インテリジェンス』，10号，20－28頁，2008年。
 12. 井村哲郎『満洲農業関係文献目録』（平成17年度～平成19年度科学研究費補助金 基盤研究(C)「戦前期日本のアジア研究機関－「満洲国」調査機関を中心に－」研究成果報告書），全134頁，2008年。
 13. 山内民博「一七世紀初慶尚道蔚山府戸籍大帳と降倭」『日韓相互認識』2号，1－24頁，2009年3月。
 14. 山内民博「朝鮮後期戸籍大帳僧戸秩及び新式戸籍僧籍の性格（上）」『資料科学研究』6号，1－24頁，2009年3月。
 15. 芳井研一「柳条湖事件直後の現地社会と住民状況」，『環日本海研究年報』，16号，104－112頁，2009年3月。
 16. 芳井研一「日露相扶会による日ソ国交回復活動の位相」，『環東アジア研究センター年報』4号，2009年3月。
 17. 芳井研一『満州事変日誌記録』（翻刻，解説），第一冊全207頁，不二出版，2009年3月。
 18. 広川佐保「中華民国期における熱河省の土地制度改革について－モンゴル・漢関係の変化－」，岡洋樹編『東北アジア研究シリーズ10：東北大学東北アジア研究センター・シンポジウム 内なる他者＝周辺民族の自己認識のなかの「中国」－モンゴルと華南の視座から－』（東北大学東北アジア研究センター），101－116頁，2009年。
 19. 広川佐保「満洲国のモンゴル語教育政策についての一考察」，『近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER』，20号，38－46頁，2008年。
 20. HIROKAWA Saho, "The Land Policy and Its Impact -A Case of Eastern Inner Mongolia 1930's-1940's " Imanishi Junko, Ulziiabaatar Demberel, Husel Borjigin, A New Global Order in North East Asia: Proceedings of the International Symposium on Global Order from the Perspective of Archives,

History, Literature, and Media – Focus on North East Asian Society –, 風響社.
2009年。

[学会発表]

中西啓子「『輔教編』と『夾註輔教編』」, 禅学研究会第79回学術大会, 花園大学, 2008年11月。